

令和 6 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表								作成：R7.2.3		
---------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	-----------	--	--

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	H18年12月開設。同センター内にサテライト特養、ショートステイ、訪問介護ステーション併設。こぶし園初の小規模として地域啓発等を行っています。住み慣れた地域でその人らしい生活が維持できるように柔軟なサービスを提供し、暮らしを支えていけるように取り組んでいます。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護美沢	管理者	木村伸彦		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・ 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	3 人	1 人	1 人	1 人	3 人	14 人	0 人	25 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・ 結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	・「暮らしの情報シート」をこれまで以上に有効活用できるように書式の見直しを行う。 その方の望まれている事や嗜好に寄せた個別ケアを実施する。各担当者が個別な関わりがもてるようにケアマネの協力を得ながら計画、実行する。 (例えば、普段行けない場所へ買い物に行く、折り紙などの作品を作る、馴染みのある場所や気分転換を図る為の外出や散歩等々)	・「暮らしの情報シート」を有効活用できなかったが、その分、タブレット内に有効な情報を落とし込み、共有しながら適切なアプローチを模索した。そして、ご利用者、ご家族の不安や課題解消に繋がった。 ・担当を中心に個別ケアを計画し、ご本人の「～したい」という意向を探り、可能な限り実現に向けて取り組めた。実施後は、満足度や達成感等の感情を含めた反応を記録に残した。	・不十分で改善が必要と思われる項目の意見から具体的な改善計画が立てられていると思う。 ・情報共有ツールを職員間で共有し、有効活用できるように改善に取り組まれている。 ・「暮らしの情報シート」という書式にこだわらなくても、その方の意向を探り、実施に向けて取り組めていると感じた。	・担当を中心にご本人の気持ちを尊重し、できることに目を向けながら意向（「～したい」）を汲み取り、個別ケア計画を実施する。 ・更なる情報共有ツールとしてタブレットを有効活用する。(暮らしの情報シートに代わる書式をタブレット内に設けるなど) ・より良いケアが継続できるように接遇係を設け、接遇目標や気づきシートを活用して定期的に事業所評価を行い、接遇力の底上げを行う。
B. 事業所の しつらえ・環境	・玄関前の季節の飾りつけや花壇の手入れ等ご利用者と一緒に行い、その様子をご家族や地域の方にも伝えていく。	・玄関前の飾りつけや野菜の収穫等ご利用者と一緒に行い、広報誌や地域共同活動などを通してご家族や地域の方にも知っていただくことができた。	・ご利用者が快適に居心地よくご利用されていることが、アンケートや活動写真から確認できた。 ・訪問させていただいた時は、いつも職員の皆さんがしっかりと挨拶できていて表情も明るいと感じている。 ・玄関前の設えは季節感を感じることができる上、会話のきつ	・玄関前の季節の飾りつけや花壇の手入れ等ご利用者と一緒に行い、その様子を広報誌や地域共同活動などを通じて、ご家族や地域の方にも伝えていく。

			かけにもなり、入りやすい。	
C. 事業所と地域のかかわり	・「まちのね」に参加された方々より取り上げてほしいテーマ・内容のアンケートを実施し、意向に合わせたテーマ・内容も積極的に企画することで、少しでも多くの方々に興味をもって参加して頂けるようにする。	・「まちのね」においては、アンケートを活用して地域の方々の関心のある内容を企画し、実施できた。	・「まちのね」の活動など積極的に取り組まれ、地域への発信、地域の情報収集など継続的に行われている。 ・地域との共同活動（クリーン作戦や防災訓練等）が多く、また、広報誌での発信により事業所の認知度は高く、頼りになる存在として多くの地域の方々から知られていると思う。	・地域活動（まちのね・地域団体の集まり）により多くの職員が（地域向けの学習会を企画するなど）参加し、積極的に関わる。そして、地域の方々と交流し、関係作りに努める。参加後は、議事録及び口頭での伝達にて活動内容の周知・共有を図る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・地域資源について学習会を実施し、ご利用者がその地域で何処とどのように繋がっているのかを分かり易く確認出来るようなエコマップを各担当者がケアマネと共同で作成する。そして、適切な地域資源を継続して活用できる様に支援していく。	・エコマップの作成までには至らなかった。まずは分かる所から確認し、関係性や役割を明確にしていきたい。	・地域資源についての情報が、学習会などを通じてままとすると更にご利用者支援、地域に活かせる有効なものになると思う。 ・徘徊の恐れがあるご利用者を地域資源を活用し、四郎丸交番とも繋がれると安心。エコマップにより見える化することで新人職員にも分かりやすく伝わるのではないと思う。 ・今回の説明により、地域資源を活用し、独居の方の支援がなされていることが分かった。	・地域資源についての学習会を実施し、ご利用者がその地域で何処とどのように繋がっているのかを確認できるエコマップを作成する。まず始めの取り掛かりは、担当がケアマネから情報を得ながらベースを作り、徐々に肉付けしていく。そして、その方に見合った地域資源が有効活用できるように支援していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議出席者を固定せず、より多くの職員が出席することで、会議の目的や内容を共有し、事業所としての理解を深めていく。	・運営推進会議への参加調整が難しく、多くの職員が参加できるまでには至らなかった。会議の内容については書面にて周知している。	・運営推進会議では多職種からの様々な意見により情報交換が行われている。 ・多くの職員が会議に出席することは体制的にどこも難しいと思うが、会議の内容、目的を書面やミーティング等でしっかりと伝達、共有されていれば良い ・各参加者の意見についても検討されており、よりよく改善しようという姿勢が見受けられた。	・運営会議により多くの職員が出席できるように調整（5月、7月、9月計3回）し、地域との関りを学ぶ。その後、議事録及び口頭の伝達にて内容の周知・共有を図る。

			・ご利用者の状態や活動報告、事故・ヒヤリハット等、細かく報告されており、事業所の状況が分かりやすく伝わった。	
F. 事業所の 防災・災害対策	・地域の防災活動に積極的に参加する。また、事業所の防災活動にも地域の方々に参加して頂けるように働きかけていく。	・地域の防災訓練に職員が参加し防災意識が相互に高まった。地域の方がセンターの防災訓練に参加して頂く事はできなかった。	・施設での防災訓練を見学させていただき、避難時の動線を見ることができて良かった。 ・災害時、ご家族はご自身の避難で精一杯となり、ご利用者の避難は施設に一任されるかと思うが、定期的に避難を想定した訓練を実施されていると、とても頼りになり助かる。 ・地域の防災訓練に積極的に参加されていると思われるが、事業所の防災訓練にも地域の方々に関わっていただけるような働きかけをしていただきたい。	・地域の防災活動に積極的に参加する。また、事業所の防災活動にも地域の方々に参加して頂けるように働きかけていく。